

あつと云はす趣向を凝らす

鎮座祭の
フキルム
來月八日頃
府民に公開
盛岡市神社會館前廣敷町廣敷太倉の
前庭に於て此の盛岡神社の神幸祭
の盛況を可成り大に觀望し其の盛
況を觀く事になつてゐるが、
此の神幸祭の盛況は來月七日頃
に於て神に祭つて此の盛況の盛況
に於て神に祭つて此の盛況の盛況

秋の樂壇を飾る藤間靜枝一行の

藤間静枝一行の
市民のよろこび

漢江下流て生捕る

廿六日午後三時、鐵匠山下、鐵釜部の鍛冶所へ、水虎渡を
籠を手に持つたが、作態は甲郷の山へ一尺五寸、長三尺五寸、
幅四十二匁あった。金は井上巨鹿、皆んで金鑄師や金買
來た販路商人の代金と流金の計とを續と二十匁で買ひ取り
江戸に送してやらんとした。金は賣らないやうである。

遺墨が語る思ひ出ばなし

冊違ひの夫婦に
贈った『奇縁』の額文字

藤公と又兵衛さんの奇しき縁

筆歌司人

てゐた。一時中野所の前主、友兵衛に
の属するものだから何時しも二
人は仲よく、友達になつてしまつた
大田藏のあては、同僚、志趣に
あつた。上りの諸公、諸豪と、同僚
に、大田藏、井上とか言つた。藤子
に、新田氏の菩提に來て
又兵衛をからかつた……とよ
く又兵衛をからかつた……とよ

十一月御舉行

[illegible]

お相撲や軍人も加へた

「東京通信」第二回選抜競走競争 ばかりに懸念して喧しもの
大合は肉體と血勇の戰ひにて至 選手を今後は斯く
二十八日、小堀に勝たれた、何卒の 選手の弱いは後者の
結果で明日、小堀と料定され、日に 選んで一勝二勝に叫べり終
つた運命日利和である、選手は生 生のマスメームに加へられたか

大阪毎日の矢野副社長

[illegible]

脅迫して強奪

[illegible]

月籍係の本家の府廳へ

[illegible]

日及び本社主

原因は
煙草の心
藤永田造船の
火捐害十三萬
（大船費）輕船大船
所出の煙は煙草の心
のしく煙草十三萬四國
の煙は五萬圓の煙草である

料理屋丸吉の隠し

[illegible]

瀧田氏外
鎌倉中央公園

母太田氏は久しく苦痛病を纏ひ、癉瘡の目宅に燃盛中とのこと。年六十時に遂に死去した。其時、山縣人、腹腹界の、入る、中興衆説の今日ある、苦心勞力に依るものである。

通行人を轢

府内諸番三の二號職員、前職、警部、の運輸手見守り御、は二十七日午後十時十分、一號を、西、一號を、一、目に向け、横走中、

十女學校の聯合體

一席に消はれる十一時、月日の
デーには本館前通りレジャーの
遊戯場では、遊戯を愛する人々
の偏しがあるが、この日は
午後一時から第一、二席は夜
遊、遊女花音、真紅阿
梨花、華子、十枝の學
行はれることになった、た
のプログラムは、遊女六
イ・式、遊戯、遊戯、遊
が斯く遊ばる少女達に安
れる遊女、遊戯デーは、遊
遊、遊女、遊女、遊女、遊
遊、遊女、遊女、遊女、遊

[illegible]

現在の既製服
 では一般洋服智識の向上せられた洋服には御満足できぬ様に見えるはず

御注文服同様
 注文服専門の弊店専任の職人が夏季の閑暇を感謝的に入念に而も貴地よくしめくり合ふ様になし得るが弊店創始のツライオン式です

價格低廉なること
 御注文より確に三四割お安くあります

縞柄地質は
 御撰定のまゝに直輸入の特恵

材料其他凡て
 (ナール・モシ服)
 オール・メード・通加充てに使用と味をこらし決して市井の既製品助く無貨なものではありません

短時間以内に
 ホシの一寸お待ち下さる内に御着用が出来ます

實れ切れぬ内に
 ドシ

御求め下さる

富田屋洋服部
 京都長条川町
 専用本電 五五〇番
 三〇九番
 三九四番
 三九四番

見舞 鮮商 大門通三三 商店秋 人地内 用 鮮 青 中 蒲 用 人 鮮 簿記 發行 會社 社 25 町 5 番 1 号

[illegible]

明附奉 京 城 青 莢 町
 京 城 青 莢 町

上 龍 藏
病 院

（市價開列）
自 七 二五 六 七
自 七 二五 六 七

代 理 店

ウリ
する

枕 詰
ッ

京 大 丸 餅 屋
京 大 丸 餅 屋
京 大 丸 餅 屋

網

正 一 價 廉 著

糸 城 出 張 所
糸 城 出 張 所
糸 城 出 張 所

[illegible]

